

寺開基は慶安二年大善主馬で、その實父前田修理知好法名大慶院菩提の爲に建立したものであるから大慶寺と稱したといふ。開山は傑外雲英。大正五年今の地に轉じた。

タイガンジマ 大慶寺前 金澤の舊町名。大慶寺の門前であるからこの名がある。廢藩後は堀川角場町とした。

ダイキイン 大機院 加賀藩主三代前田利常の子大聖寺藩主二代前田利明の法號。詳しくは大機院賢翁紹英大居士。

ダイキギヨウキユウ 大機行休 石川郡曹洞宗大乗寺三十四代の住持。上州の人、梅澤氏。業を泰寧寺寶室境に受け、卍山に嗣法した。嘗て分座を大乗寺に領し、次いで永平寺に移り、後法を永建寺に開き、享保十三年三月大乗寺に入つて開堂、十五年六月廿一日方丈で寂した。壽六十五。

ダイキゲンジヨウ 大機玄乘 金澤曹洞宗寶圓寺三十三代の住持。生國は加賀。金澤淨住寺より進山し、安政五年八月廿七日を以て遷化した。

ダイギソウコウ 大義宗孝 金澤曹洞宗天徳院六代の住持。寛延三年正月十六日寂。

ダイギユウ 大牛 ↓イットウダイギユウ 一統大牛。

ダイギヨウコウチヨウ 大鷹高約 石川郡曹洞宗大乗寺四十代の住持。武藏の人、久保氏。通外門の正龍に授じて受業し、享保十二年冬大乗寺に首衆となり、智燈照玄に嗣法した。十五年永平寺に陞り、元文元年奥州長泉寺に開法、寛延三年三州洞信寺に移り、寶曆三年又長州功山寺に轉じ、九年三月廿四日大乗寺に開堂演法し、一住三年の後十一年十一月廿六日寂した。六十六歳。

ダイギヨウジ 大行寺 珠洲郡馬線に在つて、眞宗西派に屬する。

ダイギヨウジ 大行寺 ↓ベッサン 別山。

ダイギヨウジガハ 大行事川 源平盛衰記廿九に、壽永二年彌波山合戦の後、平軍は藤塚・今湊・安宅を指して落ちたが、小川大行事の洪水に一千餘騎溺死したと載せてゐる。この大行事は、石川郡笠間郷小川村に鎮座する小白山の神靈が、別山大行事を勸請したものである所から、河名にも呼んだらしく、小川は即ち大行事川であるといふ。今は大慶寺用水といふがある。↑ヲガハ 小川。

ダイキヨウボウ 大鏡坊 羽咋郡瀧谷にあつて日蓮宗に屬する。妙成寺の塔頭で、慶長元年同寺十一代日充の隠栖として之を創建したといふ。

ダイクマチ 大工町 金澤の町名。藩初以來大工の邸地に賜はつた所で、昔は一町全部同職の者のみ居住したが、後子孫断絶或は零落し、大工ならざる者も入交つて居住することになつた。故に廢藩前までは大工肝煎の裁許の者と、地子肝煎の裁許の者と共に居住したが、尙大工職の者が多かつた。

ダイゲソウシン 大源宗眞 曹洞宗の僧。加賀の人。峨山紹領に就きて徹悟し、總持寺に出世し、永光寺に移り、後加賀の佛陀寺の開山となり、建徳元年十一月二十日寂した。峨山門下五哲の一人といはれる。

ダイコウギユウ 大孝宜雄 金澤曹洞宗寶圓寺三十一代の住持。生國は山城。文政十一年二月十一日京都北野導破寺から當寺に進山し、天保九年九月十七日永昌寺で遷化した。

タイコウヤマ 太閤山 河北郡杉瀬の山中の小字である。加越能藩跡緒に『杉瀬村持山の内往還道の脇に大山と申有之候。古へ太閤様御馬立申所と申傳候。』とある。

ダイコクマヒ 大黒舞 ↓フクノカミ 福之神。

ダイコクマル 大黒丸 安永八年三月十四日石川郡粟ヶ嶮村木屋藤石衛門が新造した巨船である。その艘載積二千石、長さ二十間四尺、幅七間二尺、船底までの深さ四間、屋根までの高さ五間三尺、面の長さ四間四尺と記録せられて居る。

タイコノ 太鼓野 石川郡吉野なる手取川の沿岸に在る。加越能藩跡緒に『吉野領の内に、太鼓野と云所有。往來の道五十間許の間、牛馬通り候へば、太鼓の如く響ある故、太鼓野といふ。』と見え、白山遊記には鼓谷と記してある。

タイサンウギヨウ 泰山雲霧 曹洞宗の僧。朝倉義景の末子であつた。長兄は早世、次兄愛王丸は天正元年義景滅亡の時、織田信長の命により丹羽長秀に誅せられ、而して當時二歳の雲霧は乳母と共に遁れたが、八歳の時越前寶圓寺に投じて象山に師事し、受具の後遠江大洞寺光國、越中瑞龍寺廣山、加賀寶圓寺登山に見えた。後能登の長齡寺に住し、總持寺に上つて塔頭芳春院を主り、更に遷つて石川郡桃雲寺二代に居た。後元和八年寶圓寺五代に遷り、前田利常夫人逝去の際その導師となり、丹州永澤寺に轉じ、又總持寺を齋したが、寛永八年鶴來の一閑院に退き、慶安元年正月廿七日示寂した、年七十五。

ダイサンキヨク 大讃曲 金澤の俳人麥水

が明和九年春(安永元)出した春興句集で、去年のみつねに次ぐものである。外題は『大盛の曲世をゆふ山の花呑む 猿穴』を發句にした歌仙が載せられてゐるのを採つたものである。白猿洞素樺の跋があり、板下は麥水自筆で、板元は書いてない。

タイザンニヨゲン 太山如元 曹洞宗の僧。筑紫の人。幼にして僧となり、諸禪師に歴參し、尋いで峨山紹領に依つた。法兄通幻の加賀に聖興寺を開いた後、如元嗣法して住持となり、次いで總持寺に出世し、幾くならずして聖興寺に歸り寂した。

タイジイン 大慈院 加賀藩主第五代前田綱紀の側室渡邊氏の法號。詳しくは大慈院仁讓日雅大姊。

ダイシツカ 大師塚 金澤小坂神社の境内天賀谷の邊にあつた。龜尾記に『何人の墳墓なるか詳かならず。近年この墳墓を掘り見しに、石の帯・曲玉・琥珀或は水晶などの玉をば、萬籠に三杯ばかりも掘出したり。其餘瑠璃の珠などもありたりとて、持ち傳ふるもの此邊にありと。さらば高位高官の人の古墳にて、いと上代よりの墳墓なるべし。』とある。

タイシツソウカン 太室宗桓 金澤曹洞宗寶圓寺二十四代の住持。生國は能登。越後村上の耕雲寺より進山し、安政元年七月廿四日現居中遷化した。

タイシヤ 大赦 皇室又は幕府又は藩の吉凶・法會等の際、罪囚に特赦を行ふことを、加賀藩では『赦に依て御免』といふて居たが、安永七年に至つて『非常の大赦』の稱が見える。その時前田重教は格別の親簡を老臣に與へたのであるが、それは今知られないので、